

1

[千葉大]

- (1) 双曲線 $x^2 - y^2 = 1$ ……①上の点 $Q_n(b_n, c_n)$, その漸近線 $y = x$ ……②上の点 $P_n(a_n, a_n)$ に対して,

$$b_n^2 - c_n^2 = 1, (b_n + c_n)(b_n - c_n) = 1 \dots\dots\dots③$$

点 Q_n を通り, 漸近線②に垂直な直線は,

$$x + y = b_n + c_n$$

この直線が $P_n(a_n, a_n)$ を通ることより,

$$2a_n = b_n + c_n \dots\dots\dots④$$

- ③④より, $b_n - c_n = \frac{1}{2a_n} \dots\dots\dots⑤$ となり, ④⑤から,

$$b_n = \frac{1}{2} \left(2a_n + \frac{1}{2a_n} \right) = a_n + \frac{1}{4a_n}, \quad c_n = \frac{1}{2} \left(2a_n - \frac{1}{2a_n} \right) = a_n - \frac{1}{4a_n}$$

よって, $Q_n \left(a_n + \frac{1}{4a_n}, a_n - \frac{1}{4a_n} \right)$ である。

- (2) 点 Q_n における①の接線は, (1)から, $\left(a_n + \frac{1}{4a_n} \right)x - \left(a_n - \frac{1}{4a_n} \right)y = 1$

この接線が点 $P_{n-1}(a_{n-1}, a_{n-1})$ を通るので,

$$\left(a_n + \frac{1}{4a_n} \right)a_{n-1} - \left(a_n - \frac{1}{4a_n} \right)a_{n-1} = 1, \quad \frac{1}{2a_n}a_{n-1} = 1$$

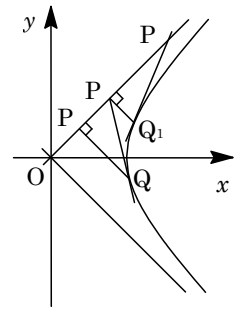
よって, $a_n = \frac{1}{2}a_{n-1}$ となり, $a_n = a_0 \left(\frac{1}{2} \right)^n$ である。

- (3) $\triangle P_n Q_n P_{n-1}$ は $\angle P_{n-1} P_n Q_n = 90^\circ$ の直角三角形であり,

$$P_{n-1} P_n = \sqrt{2} (a_{n-1} - a_n) = \sqrt{2} (2a_n - a_n) = \sqrt{2} a_n$$

$$P_n Q_n = \sqrt{\left(a_n + \frac{1}{4a_n} - a_n \right)^2 + \left(a_n - \frac{1}{4a_n} - a_n \right)^2} = \sqrt{\frac{1}{8a_n^2}} = \frac{1}{2\sqrt{2}a_n}$$

よって, $\triangle P_n Q_n P_{n-1} = \frac{1}{2} \cdot \sqrt{2} a_n \cdot \frac{1}{2\sqrt{2} a_n} = \frac{1}{4}$ である。



[解説]

漸化式 of 双曲線への応用問題です。煩わしい計算の多い 2 次曲線としては, 計算量は少なめです。

2

[金沢大]

- (1) まず、楕円 $C: x^2 + 4y^2 = 4$ を y 軸方向に 2 倍拡大して、円 $C': x^2 + y^2 = 4$ をつくとする。

このとき、点 P は P' 、点 $R(0, 1)$ は $R'(0, 2)$ に対応し、点 $Q(2, 0)$ の位置は変わらない。

すると、 $\triangle PQR = \frac{1}{2} \triangle P'QR'$ より、 $\triangle PQR$ の面積が最大になるのは、 $\triangle P'QR'$ の面積が最大するときである。

このときの点 P' の座標は、直線 $y = x$ に関する対称性から、 $P'(2\cos\frac{5}{4}\pi, 2\sin\frac{5}{4}\pi)$ すなわち $P'(-\sqrt{2}, -\sqrt{2})$ である。また最大値は、

$$\triangle P'QR' = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot 2 + \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \sqrt{2} + \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \sqrt{2} = 2 + 2\sqrt{2}$$

よって、 $\triangle PQR$ は $P(-\sqrt{2}, -\frac{\sqrt{2}}{2})$ のときに最大となり、最大値は、

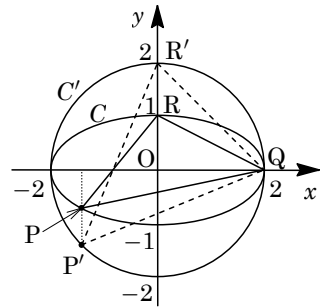
$$\frac{1}{2}(2 + 2\sqrt{2}) = 1 + \sqrt{2}$$

- (2) (1)と同様にして、円 C' の内側で直線 $P'Q$ の下方にある部分の面積は、

$$\frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \frac{3}{4}\pi - \frac{1}{2} \cdot 2^2 \cdot \sin\frac{3}{4}\pi = \frac{3}{2}\pi - \sqrt{2}$$

よって、楕円 C の内側で直線 PQ の下方にある部分の面積は、

$$\frac{1}{2} \left(\frac{3}{2}\pi - \sqrt{2} \right) = \frac{3}{4}\pi - \frac{\sqrt{2}}{2}$$



[解説]

楕円を円に変換して処理する解法を採用しました。そうすると、計算はほとんど不要といってよいぐらいの解答例になります。

3

[金沢大]

- (1) $P(t, t^2)$ ($t > 0$) に対して、 OP の傾きは t より、 O を通り OP に垂直な直線 l の方程式は、

$$y = -\frac{1}{t}x \cdots \cdots \textcircled{1}$$

- $A(0, a)$ ($0 < a \leq 1$) に対して、直線 PA の方程式は、

$$y = \frac{t^2 - a}{t}x + a \cdots \cdots \textcircled{2}$$

ここで、 $\frac{t^2 - a}{t} = -\frac{1}{t}$ とすると $\frac{t^2 - a + 1}{t} = 0$ となるが、 $t^2 > 0$ 、 $0 < a \leq 1$ から成立しない。よって、直線 PA と l は交わる。

そこで、①②を連立すると、 $\frac{t^2 - a}{t}x + a = -\frac{1}{t}x$ より、

$$x = -\frac{at}{t^2 - a + 1}, \quad y = \frac{a}{t^2 - a + 1}$$

①と②の交点が $Q(u, v)$ より、 $u = -\frac{at}{t^2 - a + 1}$ 、 $v = \frac{a}{t^2 - a + 1}$

- (2) 点 $Q(u, v)$ の軌跡が $(-\frac{1}{\sqrt{3}}, 1)$ を通ることより、(1)から、

$$-\frac{at}{t^2 - a + 1} = -\frac{1}{\sqrt{3}} \cdots \cdots \textcircled{3}, \quad \frac{a}{t^2 - a + 1} = 1 \cdots \cdots \textcircled{4}$$

④より $t^2 - a + 1 = a$ となり、③に代入すると、 $t = \frac{1}{\sqrt{3}}$ となるので、④から、

$$a = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{3} + 1 \right) = \frac{2}{3}$$

このとき、(1)から、 $u = -\frac{2t}{3t^2 + 1} \cdots \cdots \textcircled{5}$ 、 $v = \frac{2}{3t^2 + 1} \cdots \cdots \textcircled{6}$

すると、 $v \neq 0$ から $t = -\frac{u}{v}$ となり、⑥に代入すると $v \left(3 \cdot \frac{u^2}{v^2} + 1 \right) = 2$ から、

$$\frac{3u^2}{v} + v = 2, \quad 3u^2 + v^2 = 2v, \quad 3u^2 + (v-1)^2 = 1$$

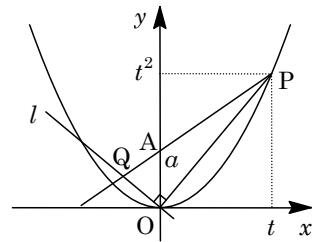
ここで、⑤を $u = -\frac{2}{3t + \frac{1}{t}}$ と変形すると、 $3t + \frac{1}{t} \geq 2\sqrt{3}$ から $-\frac{1}{\sqrt{3}} \leq u < 0$ となり、

また⑥から、 $3t^2 + 1 > 1$ より $0 < v < 2$ である。

以上より、点 Q の軌跡は、楕円 $3x^2 + (y-1)^2 = 1$ の第2象限の部分である。

[解説]

パラメータ表示された点の軌跡の問題です。ただ、軌跡に限界が現れる点には注意が必要です。



4

[金沢大]

楕円 $C: \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$ と 4 点 $(c, 0)$, $(0, c)$, $(-c, 0)$, $(0, -c)$ を頂点とする正方形の第 1 象限の接点 P の座標を $(a \cos \theta, b \sin \theta)$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) とおくと、接線の方程式は、

$$\frac{a \cos \theta}{a^2} x + \frac{b \sin \theta}{b^2} y = 1, \quad \frac{\cos \theta}{a} x + \frac{\sin \theta}{b} y = 1$$

この接線が、点 $(c, 0)$, $(0, c)$ を通るので、

$$\frac{c \cos \theta}{a} = 1 \dots\dots\dots \textcircled{1}, \quad \frac{c \sin \theta}{b} = 1 \dots\dots\dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より, } \cos \theta = \frac{a}{c}, \quad \sin \theta = \frac{b}{c} \text{ となり, } \left(\frac{a}{c}\right)^2 + \left(\frac{b}{c}\right)^2 = 1, \quad a^2 + b^2 = c^2 \dots\dots\dots \textcircled{3}$$

このとき、第 1 象限の接点の座標は $\left(\frac{a^2}{c}, \frac{b^2}{c}\right)$ となり、4 つの接点を結んでできる四角形は、対称性から長方形となるので、 $\textcircled{3}$ を利用すると、その面積 S は、

$$S = 4 \cdot \frac{a^2}{c} \cdot \frac{b^2}{c} = \frac{4a^2b^2}{c^2} = \frac{4a^2b^2}{a^2 + b^2}$$

また、楕円 C で囲まれる図形の面積 T は、

$$T = \pi a^2 \cdot \frac{b}{a} = \pi ab$$

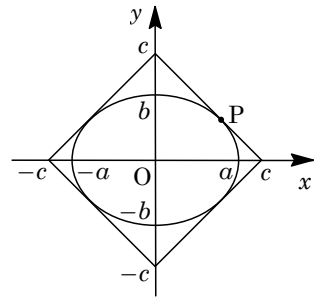
$$\text{このとき, } \frac{2}{\pi} - \frac{S}{T} = \frac{2}{\pi} - \frac{4a^2b^2}{a^2 + b^2} \cdot \frac{1}{\pi ab} = \frac{2}{\pi} - \frac{4ab}{\pi(a^2 + b^2)} = \frac{2}{\pi} \left(1 - \frac{2ab}{a^2 + b^2}\right) \dots\dots\dots \textcircled{4}$$

ここで、相加平均と相乗平均の関係より、

$$a^2 + b^2 \geq 2\sqrt{a^2b^2} = 2ab, \quad \frac{2ab}{a^2 + b^2} \leq 1 \quad (\text{等号は } a = b \text{ のとき成立}) \dots\dots\dots \textcircled{5}$$

$$\textcircled{4}\textcircled{5} \text{より, } \frac{2}{\pi} - \frac{S}{T} \geq 0, \quad \text{すなわち } \frac{S}{T} \leq \frac{2}{\pi} \text{ が成り立つ。}$$

また、等号成立は、 $\textcircled{3}$ も合わせると、 $a = b = \frac{c}{\sqrt{2}}$ のときである。



[解説]

楕円を題材とした基本的な問題です。式変形を進めると、相加平均と相乗平均の関係を利用することが推測できます。もっとも、 c と θ で処理する手もありますが。